

震災の 教訓と反省

4月20日の朝、中国四川省の雅安市で震度7の地震が発生し、約200名の人々が死亡した。犠牲者の中では、5年前の汶川地震の当日に生まれた王延霞ちゃんが一番有名だと思う。延霞ちゃん母親は、当時の強震に耐えて、延霞ちゃんを出産した。延霞ちゃんは「地震宝宝」（地震ベイビー）と近所の人々に親しく呼ばれた。しかし、今回の地震で、延霞ちゃんの家が崩壊して、5歳の幼い命は失われた。彼女の死は、大きな物議をかもした。雅安地区と汶川地区は、同じの断層プレートの上にあるということで、5年前、中央政府は専用耐震予算を公布した。しかし、地方の官僚は、資金を住民に渡さず、橋などの良く目につく公共建築に使った。今回の地震で、ある地域の農家の建物は、95%以上が崩壊した。大勢の犠牲

者と負傷者は、これが原因で、難を逃れられなかった。

雅安市の宝興県県長は、今回の地震で県の全ての水道・電気・ガスがストップ、全ての建物が損害を受けたと発表した。最も驚いたのは、前回の地震の後で建築された震度8以上に耐えるとされた建物も大きな損害を受けたことである。

どうして、震度8以上に耐えられる建物が、震度7の地震に耐えられなかったのか。中国の専門家が日本と比較して原因を挙げた。もし、同じ震度の地震が日本で発生したら、沢山の人命犠牲に至ら

なかったと分析した。彼らの結論は、中国の建築者は、日本の建築者より真面目さが足りないこと、そして、監督、検収などの制度は、実質的には有名無実な事であったということである。

数年前、日本に偽造耐震標準で建築したマンションが撤去された。中国でも大きなニュースになった。もし、日本と同じ基準にすれば、中国の相当の建物が、危険な建築に判断されるに違いないと思う。

地震などの自然災害は、全人類が直面する問題である。当然、自然災害に対処する経験、基準も全人類の共同財産である。尊い命は、国籍により、優劣に区分できないから、他国の良い科学的な方法を無条件に受け入れるべきだと思う。

5年前、当時の温家宝首相が、良く使った言葉は、「多難興邦」である。この言葉の意味は、国が多事多難であれば、国民が奮起して国の興隆をもたらすということである。今回の雅安地震後、中国の有識者は、多難で自然に国が強くなるわけではなく、災難によりもたらされた命の犠牲の教訓に対する真摯な反省から、国家と国民が強くなると指摘した。

